



アドリブの道

アドリブに完成はありません。

例えるなら登山家のような、自分を鍛えて限界を超える「自分磨き」の世界です。

たくさん歩ける持久力を付け、岩場を登る筋力を鍛え、ピッケルなどの装備を使いこなす技術を学ぶ。

そうして低い山を登頂できたらさらに自分を磨き、さらに高い山を目指し挑戦する。

その為には先に言った通り持久力や筋力、技術の鍛錬が欠かせません。

しかしその鍛錬を乗り越えた先に、登頂の達成感や成長の喜びがあります。

さて、一年前の自分を振り返ってみて下さい。自分でも気付かないうちに結構登ってきているものですよ。

具体的に何を練習すれば上達する？

①スケール →メジャースケールとブルーススケールは必須！

- ・その曲全体を通してどんな音を使えば良いのかがわかるようになる
- ・指がスムーズに動くようになる
- ・音感が良くなり、耳コピがしやすくなる

②コード →ダイアトニック以外のコードトーンを意識しよう！

- ・コードに沿ったジャズらしい音使いができるようになる
- ・曲の構造が理解できるようになり、ロストしにくくなる
- ・音感が良くなり、さらに耳コピがしやすくなる

③フレーズ →ジャズの巨匠が残したフレーズを実際に吹いてみよう！

- ・ジャズらしさが一気に出る！
- ・コードに沿った美しいスケール&コードトーンの使い方を学べる

これさえできれば
アドリブ攻略
間違いなし！

スケールを使いこなそう～Now's The Time～



！スケールを本当に使いこなせているかチェック！

- 音を飛ばしたりせずスケールの順番通り吹ける
- 低い音から高い音まで、8分音符で上行下行できる
- 楽譜を見ずに正しく吹ける。指と耳で覚えている。
- このスケールを使ってジャズらしいフレーズを作ることができる

☆「使いこなす」とは、九九の掛け算のように「脊髓反射で言える（吹ける）」ということ！

コードトーンを使いこなそう～The Days Of Wine And Roses～

①この曲のキーはD _____ だから

この曲のキースケール（またはダイアトニックスケールとも言う。

曲全体を通して使えるスケール）はD _____ スケール



★まずはこのスケールを使ってソロを吹いてみよう！

！さらにワンポイントチェック！

- 裏拍でフレーズを始めたり、3連符を使ってジャズらしいリズムで吹ける
- 低音や高音、休符をうまく使ってソロに起承転結を作ることができる

2

②Dメジャースケールの各音をルートにして
Dメジャースケールの音のみを使ったコードを作ると以下のようなになる。
これがダイアトニックコードである！

3 D Δ ⁷ Em⁷ F \sharp m⁷ G Δ ⁷ A⁷ Bm⁷ C \sharp m⁷(b5) D Δ ⁷

I Δ ⁷ II m⁷ III m⁷ IV Δ ⁷ V⁷ VI m⁷ VII m⁷(b5) I Δ ⁷

↑上の和音は全てDメジャースケールの音で出来ており、それ以外の音を使っていない。
と言うことは、このコードが出てきたときはDメジャースケールを使えば問題なし！

③ここまでわかったらいよいよ実践！酒バラのコードトーンを書き出して、
ダイアトニックコード以外のコードに丸をつけ、
Dメジャースケール以外の音は赤く塗ってみましょう。

4 D Δ ⁷ C⁷ F \sharp m⁷(b5) B⁷ ←このように
続きを書いてみよう！

8 Em⁷ Gm⁷ C⁷

12 1. F \sharp m⁷ Bm⁷ Em⁷ A⁷

16 C \sharp m⁷(b5) F \sharp ⁷ Bm⁷ E⁷ Em⁷ A⁷

20 2. F \sharp m⁷ Bm⁷ G \sharp m⁷(b5) G⁷

24 F \sharp m⁷ B⁷ Em⁷ A⁷ D Δ ⁷ Em⁷ A⁷

★赤の音を使うように意識してソロを吹いてみよう！
逆にダイアトニックコードのところは、落ち着いてDメジャースケールを吹こう！

フレーズを吹いてみよう～The Days Of Wine And Roses～

(3～4小節目)

(7～9小節目)

F \sharp m⁷(b5) B⁷ Gm⁷ C⁷ F \sharp m⁷

☆フレーズをやるときはやっぱり耳コピしないとダメなの？→当日解説